

## 会 議 録

会議の名称	豊中市市民公益活動推進委員会 地域自治推進部会		
開催日時	令和 3 年（2021 年）7 月 26 日（月）10 時～11 時 45 分		
開催場所	市役所第二庁舎 3 階大会議室 (WEB 会議)	公開の可否	可・不可・一部不可
事務局	市民協働部 コミュニティ政策課	傍聴者数	0 人
公開しなかつた理由			
出席者	委員	乾部会長、佐藤委員、関委員、河辺委員、山本(恵)委員、山本(和)委員	
	事務局	高橋部長、松永次長兼課長、水谷主幹、大和課長補佐、村上副主幹、北田係長、小嶋係長、上井主事、黒岡主事	
議題	1. 地域自治推進施策の実施状況の評価について 2. その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

# 令和3年度（2021年度）豊中市市民公益活動推進委員会 第1回地域自治推進部会 議事概要

日 時 令和3年（2021年）7月26日（月）10時～11時45分

場 所 市役所第二庁舎3階大会議室（WEB会議）

出席委員 乾、佐藤、関、河辺、山本(恵)、山本(和)（敬称略）

## 議 事 概 要

### 1. 開会

開会宣言、会議公開の旨の確認、本日の案件及び資料等の確認。

### 2. 案件1 地域自治推進施策の実施状況の評価について

資料1：評価のとりまとめ方法とスケジュール

資料2：令和2年度(2020年度)豊中市市民公益活動推進施策実施状況報告書（案）

- ・資料1に基づき事務局から評価のとりまとめ方法及びスケジュールについて説明。

#### 部会長

とりまとめ方法及びスケジュールについて、ただいまの事務局からの説明のとおりでよろしいか。

～異議無し～

#### 部会長

本日は実施状況への評価を行うことが主目的であるが、地域自治システムそのものについての意見を出すことも含めて議論してよいとの理解で大丈夫か。また、地域自治システムについては今後とも継続して議論するとの考えでよいか。

#### 事務局

部会での議論で完結するかどうかは別として、地域自治システムについての議論は、今後も引き続いて部会で議論していただくことになると思う。

#### 部会長

それでは昨年度の実施状況についての意見以外にも、地域自治システムに関しての意見も含めて議論いただきたい。

- ・資料2に基づき、実施状況について説明。

#### 部会長

この報告書の位置づけとしては、庁内に向けての報告なのか市民に向けてのものなのか。

#### 事務局

最終的には市民向けに公表するが、庁内において、施策の議論のための資料としても活用するものである。

#### 部会長

庁内の見直し検討にも活用されるということであるが、市民向けとしても理解しやすい表現にな

っているか、留意したほうがよいだろう。

### **委員**

地域自治システムにおける従来の自治会との関係性について、確認したい。1つの小学校区内で、自治会のある区域と無い区域が混在している場合、地域自治組織を立ち上げるときには、自治会が無い区域では改めて自治会をつくる必要があると一般の市民は考えてしまうと思う。

### **部会長**

既に設立されている地域自治組織において、構成としては地域の各種団体と自治会が含まれていると思うが、自治会が無い地区の住民は、地域自治組織にどうやってつながるのか確認したい。

### **事務局**

地域自治協議会では、校区の住民全員が構成メンバーとなり、自治会の有無にかかわらず、発行した広報誌等は校区内の全ての世帯に配布され、協議会が主催する行事に関しても、校区内の全ての住民が参加可能である。自治会、公民分館、校区福祉委員会等、地域の各種団体は、それぞれ連携する行政の担当部局が異なっており、縦割りとなっていたが、地域という横串でつながり、構成団体が連携して地域自治組織として事業を行っている。

### **委員**

地域自治組織が設立された校区での、組織の認知率はどれくらいか。

### **事務局**

地域活動への関わり具合によっては、認知度は高くないかもしれない。小曾根小学校区地域自治協議会で地域づくり活動計画を策定するにあたり、住民へのアンケート調査を行ったが、協議会の認知度を知りたいということも調査実施のねらいの一つとしてあった。ただ、協議会の認知度に関わらず、防災訓練等の実施事業については広く認識されていると思う。

### **部会長**

取組みについての住民からの要望等は、どのようにして地域自治組織に伝えられているのか。

### **事務局**

自治会長を通じて協議会に伝える方法があるが、全ての自治会から協議会に代表者が出席しているわけではない。また、自治会に未加入の方も含めて協議会として公募委員を募集しているが、応募は多くない。住民が参加できるイベントを行って認知度を上げ、意見を拾えるようにするなどの工夫が考えられる。

### **委員**

所属する自治会で班長となり、2週間に1回、多くの広報物等が届くようになった。マンションでは掲示する広報物の選択や調整を管理人の方が行っているが、実際に班長となって、たいへん多くの広報物が送られていたことに気づいた。地域自治組織を設立されている校区に比べれば、設立されていない校区での活動は少ないかもしれないが、それでも多くの事業等がなされていることがわかった。

### **部会長**

活動に関わることで、実際の状況が見えてくると思う。地域活動に関わりが少ない住民の方々に、どのように知らせていくとよいのか、課題である。

## 委員

南桜塚校区地域連絡協議会の防災訓練に関わっているが、居住している地域とは異なる印象を受けている。居住している地域では、連合自治会で防災や祭り等の行事を行っている。地域自治協議会は、自治会が中心となっている組織ではなく、参加者は各種テーマでの活動に携わっている人たちで、年齢層も幅広く、共通のテーマとしては祭りや防犯、防災に限定されているところが少し残念であると思っていた。ただ、協議会を設立している校区の取組みとして、キャラクターの選定や情報誌の発行等が報告書に記載されており、新しい取組みも実施されていることがわかった。協議会として力をつけてきておられると思うが、そこには支援する行政の役割も大きいとの印象を持っている。

## 部会長

自治会が中心となっていないため、どのようにして地域自治協議会を設立していくのか、道筋が見えにくい。協議会を小学校、自治会を学校の中のクラスや班とすれば、豊中ではクラスや班が無い状態で、学校全体のことを行う組織が存在しているといえる。協議会で活動している人が、どこに根を張っているのかなかなか見えない。

## 委員

制度が創設されて10年が経過していることから、現状について調査し要因を分析する必要があるのではないだろうか。設立された協議会に関しては設立できた理由を、途中まで設立に向けた取組みを行ったが設立に至らなかった地域については、できなかった理由を、全く取組みに着手していない地域についてはその理由を、それぞれ分析する時期ではないだろうか。コミュニティ活動は属人的な部分が大きく、報告書に記載しにくいのも事実である。38頁に記載されている地域の各種団体における加入率や、どの団体が地域で中心となっているのか等を調査してはどうか。このシステムでは、人的な面と資金的な面の両方で段階的な支援があり、模範的なシステムであると思うが、もう少し裾野を広げることも検討してはどうか。例えばプレ段階の校区向けに、補助金額を30万円とする制度を設け、簡易版の組織からスタートして、徐々に正式な協議会に移行する方法も考えられる。

## 委員

地域自治組織が設立されている地域と、設立されていない地域の違いは、どういったところにあるのだろうか。例えば、工業地域では設立しにくいのか、また、リーダーシップをとる方の有無が影響しているのか。リーダーシップをとる方の存在によって設立されている場合は、その方が高齢化されたときに、連動して組織が消滅することもあるかと思う。

## 事務局

工業地域かどうかはあまり関係が無く、設立においてキーパーソンとなる方の存在が大きい地区や、元々地域に災害対策の組織や連合会があったことで設立の動きがとりやすかった地区等がある。全校区に説明を行ったのだが、地域で中心となる方が反対されると、協議会設立には進みにくい。

## 委員

コロナ禍で、地域の公園で子ども達が遊ぶ姿や、ペットの散歩での交流が始まっている様子を見るようになった。近隣同士で協力し、行政とも連携して野良猫を保護する取組みをされている方々もおられる。地域で組織を作る際に、これまでは活動が活発な壮年等の世代を重視していたのでは

ないかと思うが、地域のつながり作りにおいて、子どもやペットもキーワードになるのではないかと考えている。

#### **部会長**

地域自治システムがコロナ禍でどうなっているか、地域ごとに状況を確認して情報収集することも必要ではないか。

#### **委員**

社会福祉協議会では、助け合いの活動や、ファミリーサポート事業等を実施している。本当は近所の方同士で助け合うことがよいが、社会福祉協議会と市が別組織であり、近隣の方の手助けをしたいと思っても、情報が届いてこないのでは手伝えないこともあると思う。組織同士で連携して、支援を必要とする人と支援を行う人とを近隣の地域内でつないでもらいたい。

#### **部会長**

社会福祉協議会のファミリーサポートの仕組みとはどのようなものか。

#### **委員**

登録した人が、例えば保育園のお迎え等を有償でサポートするものであり、校区等の単位ではなく市全体での仕組みのため、必ずしも近所の人を紹介されるとは限らない。

#### **部会長**

そういう仕組みが地域でなされることを、市としては期待しているのかもしれないがどうだろうか。

#### **事務局**

校区内には校区福祉委員会があるが、既に多くの活動を実施されているので、新たな取組みへの着手には負担感があるのではないだろうか。

#### **委員**

自治会の加入率が4割を切っており、さらにこの傾向が進む可能性がある。自治会への意識が低くなくても、リーダーになる人がいない。地域自治組織が横串になるということだが、ベースとなる自治会がしっかりとしていない場合には成り立たないのではないか。他市の団地では、行政の指導のもと、自治会加入を義務づけているところがあったと思う。自治会に関して状況を放置していることに問題があるのではないかと感じた。

#### **部会長**

自治会への加入率が減ってきているのは他市も共通しているが、基本的に自治会がベースとなってきたところと、そうではない豊中市とでは、状況が異なると思う。豊中市での元々の方針について確認したい。

#### **事務局**

地域自治システムは、自治会に注力して自治会を補強する発想で創設されたものではなく、自治会の他にテーマを明確にした組織である校区福祉委員会や公民分館が有機的につながりを持ち、地域を盛り上げていくことが原点であったと認識している。豊中市の独特の状況から、自治会に主として力を入れる動きをとってきていないという経緯がある。

#### **委員**

若い世代の住民は手助けを求めており、市民公益活動団体への助成金申込みにおいても乳幼児の

いる世帯を支援する取組みが複数見られたが、若い人たちは地域の人へは支援を求めておらず、自治会やPTA等への関心も薄くなっている印象があり、残念に思っている。本来は近隣で若い世代を助ける関係性が築けていることが望ましく、そうなれば自治会にも若い世代が入ってくるのではと思う。

#### **部会長**

自治会加入率を物差として示すことが、豊中市の現状と矛盾している。地域自治システムの構成団体の状況や、自治会の代替の役割を果たしているのか等、調査しないといけないのではないだろうか。校區別データベース作成の意図も、元々はそこにあったと思う。

#### **委員**

44 頁に、令和 2 年度は原田校区と東泉丘校区に制度の説明を行ったと記載されているが、この 2 地区をどのような基準で選んだのかと、実施した効果について確認したい。また、今後、設立されていない地域への説明等を拡大する際の基準等はあるのだろうか。

#### **事務局**

公民分館を所管する公民館から、コロナ禍でも活動を実施されている校区を紹介してもらい、説明を行うことを依頼して対応いただいた。原田校区については、公民分館長に説明を行ったが、他のメンバーの方々が集まる機会に、再度説明を行うことを予定している。東泉丘校区に関しては、公民分館長に説明した後、地域の方々が集まる機会として、校区福祉委員会でも説明させていただいた。徐々に説明するメンバーを増やしていったら、地域で検討していただけるようになればと思っている。

#### **部会長**

市民がこの報告書を読んだときに、自分の住んでいる校区の状況がどうなっていて、地域自治組織に関してどこに尋ねていったらよいのかがわからないと思う。窓口となるところを記載したほうがよいのではないか。

#### **事務局**

平成 23 年度に全公民分館長が集まる公民分館協議会で説明を行っており、そこから現在の 8 校区での協議会設立につながっている。約 10 年経って分館長のメンバーも変わってきていることから、今一度、公民館に確認して個別の公民分館長に説明を行っている状況である。

#### **委員**

45 頁に市からの支援に関する記載があるが、実際にはもっと多くのことを市が行っているのではないかと思う。支援内容を評価するためにも、行っている支援を可視化するような記載が望ましいと思う。

#### **部会長**

行政としては書きにくいかもしれないが、例えば資料編に記載するなどして、支援体制等を示したほうがよいと思う。

#### **委員**

資料編に関しては、オンラインに馴染んでいる若い人に興味を持ってもらうためにも、オンラインの夏祭りやオンライン研修等の先進的な事例について、どのように実施し、どのくらいの方が参加したのか等の情報を追記してはどうだろうか。実施内容の重みづけができればよいのではと思う。

た。

#### **部会長**

コロナ禍であるということの視点を含めて、成果等を整理し、報告書を記載してもらいたい。また、自治会をどう位置付けて各種団体とつなげていくのか、属人的要因以外にも地域毎に分析をした上で、部会で今後継続して議論したい。報告書には、市の支援体制についても記載されたい。

#### **事務局**

本日いただいたご意見を元に、コロナ禍での地域でのオンラインを活用した取組みや市の対応等を、施策実施状況報告書に反映させていきたい。地域自治システムについては、開始後 10 年となり、運用状況についての確認を行う転換点に差し掛かっていると思っている。自治会の加入率がこの 10 年でも 10%下がっており、ベースとなる体制がしっかりと存在しているところに、複数のテーマごとの団体が連携して地域自治協議会の設立に結び付けるという想定が変わってきている感もある。本委員会でもご意見をいただき、今後、見直しの要不要も含めて、相談させていただければと思っている。

#### **部会長**

豊中市の場合、地域自治組織に関して市の役割がたいへん大きい。現状を明らかにしビジョンを明確にして地域に入っていくというスタンスや役割の果たし方が、非常に大切である。市がこの 10 年間でどう評価し、今後どうなっていくことを考えているのか明確にして、動き出すことが大事な時期ではと思う。校區別データベースにも、地域の状況の総括や評価を記載して、地域に関わっていけるようになればと思う。市民へしっかりと説明して進めてもらいたい。

本日出された意見は、次回の市民公益活動推進委員会で報告する予定である。

### **3. 案件 2 その他**

#### **事務連絡**

○第 2 回市民公益活動推進委員会

日時：8 月 18 日（水）午前 10 時から 場所：市役所第一庁舎 2 階大会議室

### **4. 閉会**